

|                 |  |             |   |             |
|-----------------|--|-------------|---|-------------|
| 授業科目名<br>(講義題目) | 国際経営 (2017年)<br>(Global Environment of Business)   |             | 開講学期<br>単位数                                     | 前期<br>2単位   |
| 担当教員            | 星野 裕志  | 講義コード       | 科目区分<br>対象学生                                    | 選択<br>1・2年生 |
|                 |  | 17176003    |   |             |
|                 |  | 火曜日 1時限     |   |             |
| 開講予定日           | ① 4/11 ② 4/18 ③ 4/25 ④ 5/9 ⑤ 5/16 ⑥ 5/23 ⑦ 5/30<br>⑧ 6/6 ⑨ 6/13 ⑩ 6/20 ⑪ 6/27 ⑫ 7/4 ⑬ 7/11 ⑭ 7/18 ⑮ 7/25 |             |   |             |
| 履修条件            | 特に指定しない<br>アジア・ビジネス関連の基礎科目の位置づけ  | キーワード       | 多国籍企業、経営環境、<br>グローバル・オペレーション、<br>企業戦略           |             |
| 全体の教育<br>目標     | ・企業の国際経営の枠組みと戦略の理解<br>・ケース・メソッドを通じた経営管理能力の向上   | 個別の学習<br>目標 | ・ケース・メソッドを通じた経営管理能力の向上<br>・判断力（詳細な分析に基づいた戦略の構築） |             |

## 授業の概要

多くの企業にとって、原材料輸入や製品の輸出だけでなく、情報や技術などの移転も合わせて、海外との関係なしに事業が成立し得ない。企業活動のグローバル化について、そのプロセス、多国籍企業化の理論、経営環境、組織を中心に、多国籍展開の枠組みと戦略を体系的に考える。

本講義では、日本企業の国際経営を含めて、多国籍企業が展開するグローバル・オペレーションの具体的な事例を取り上げながら、市場、投資、生産、購買、マネジメントなど、企業を取り巻く環境変化への対応を分析する。従来の多国籍企業研究は、主に製造業の動向の分析が多く見られたが、今日製造業と並んでサービス産業などの非製造企業の動きも、経済のソフト化と共に重要視されていることから、製造業と非製造業の双方のグローバル展開を取り上げる。

講義とケース・メソッドによる教育を行うことで、経営知識の修得と経営管理能力の向上を目指す。また市場環境の変化の捉え方と戦略構築に関して、外部からのゲスト・スピーカーを交えて、具体的な企業の事例について双方向の議論を行うことでさらに理解を深める。

アジア・ビジネス関連科目など、企業の国際経営に関する選択科目受講への基盤作りを目標とする。本シラバスの基本的な枠組みは変わらないが、講義開始時に実際の日程に基づいて若干の変更はありうる。

## 授業の進め方

1. テーマに沿った講義とケースのディスカッションを中心に進める
2. 指定した課題文献を事前に購読し、要点整理を行う
3. 授業の準備として、ケースに関するグループ・ワークを通じて、多様な分析の視点を学ぶ
4. 各自の問題意識に基づいて、質疑、コメントおよび内容補足を行う
5. ケースの課題に関して、レポートをまとめて提出
6. 外部からのゲスト・スピーカーを招き、質疑とディスカッションを行う

\*本講義の受講を検討している人は、必ず初回のガイダンス (4/11) に出席すること。

|                        |   |
|------------------------|---|
| <b>教科書および<br/>参考図書</b> | <p>教科書： 特に指定しない。<br/>講義は受講者に配布するコース・パケットと講義資料に基づいて進める。<br/>利用するケースは各自で購入（方法は初回に説明する。なおシラバスに記載したケースは昨年の例であり変更の可能性あり）。</p> <p>参考図書： 講義の理解を助けるために、参考として以下の文献を紹介する。<br/>吉原英樹（2015年）『国際経営（第4版）』有斐閣<br/>浅川和宏著（2006年）『グローバル経営入門』日本経済新聞社<br/>Bartlett, Christopher and Ghoshal, Sumantra（1998）<i>Managing Across Borders</i>, Harvard Business School Press</p> |
| <b>試験・成績評価の方法等</b>     | <p>ケース課題の提出： 50パーセント（課題提出4回程度）<br/>クラスへの貢献： 25パーセント（出席自体は評価の対象にならない。講義への貢献が求められる）<br/>最終レポート： 25パーセント（課題は講義中に指示する）</p>  |
| <b>WebCT</b>           | <p>九州大学 e ラーニングシステム (<a href="https://moodle.artsci.kyushu-u.ac.jp">https://moodle.artsci.kyushu-u.ac.jp</a>) を利用するので、欠席時の講義資料やケースとその課題については、各自で「2017年度前期火6国際経営」にログインして、入手のこと。</p>  |